PRESS RELEASE

報道関係各位

2026 年 11 月 20 日
Ｈｍｃｏｍｍ株式会社
（東証グロース 265A）

Ｈｍｃｏｍｍ、静岡市上下水道局とともに実証実験を実施
～福山市に続き、AI による下水道腐食リスク可視化・重点点検支援の検証を展開～

【PASP 通信 Vol.01】

本リリースは、当社が掲げる「Physical AI Sound Platform（PASP）」戦略における社会実装・事業化の進捗を、ステークホルダーの皆様へ継続的にお伝えする「PASP 通信」の第 1 弾です。

PASP は、異音検知ソリューション「FAST-D」で培った音響解析・異常検知 AI を中核に、地理空間情報や各種センサー、設備・点検データなどを組み合わせ、社会インフラや産業設備の異常検知・リスク予測・予防保全を支援するプラットフォームです。

PASP（Physical AI Sound Platform）の概要については、以下をご参照ください。

https://note.com/hmcomm_fastd/n/ncef1fbe361da

Ｈｍｃｏｍｍ株式会社（以下「当社」）は、静岡市上下水道局が実施する「静岡市上下水道事業の問題・課題解決に向けた実証実験」において、「AI による下水道腐食リスク可視化と重点点検支援技術の実証」に取り組んでまいりますので、お知らせいたします。

本実証では、下水道台帳や点検・修繕履歴等の既存データを活用して腐食リスクの高い候補地点を抽出し、現地での複数センサーによる環境データの継続計測を組み合わせることで、AI による腐食リスクの推定・可視化と、優先的に点検すべき地点の選定支援に取り組みます。

広島県福山市に続き、静岡市でも検証を進めることで、地域や管路条件の異なる環境で技術の適用可能性を確認し、下水道インフラの重点点検・予防保全を支援する技術の実用化を目指します。

1. 背景：「どこを優先して点検するか」を支える技術へ

下水道管路の老朽化が進む中、限られた人員・予算で膨大な管路を維持管理するためには、リスクの高い地点を事前に絞り込み、重点的に点検・調査する仕組みが求められています。また、管路内の調査には、安全確保や作業負担の面でも課題があります。

当社は、滋賀県守山市における上水道の漏水検知実証を通じ、広域データからリスクの高い地点を抽出し、音響解析 AI 技術を活用した現地確認につなげる手法の検証を進めてきました。この考え方を下

水道分野へ展開し、福山市において、既存データの分析と複数センサーによる計測を組み合わせた腐食リスク評価に取り組んでいます。

今回の静岡市での実証実験により、下水道分野での検証先を広げ、他自治体にも適用できる技術・運用方法の確立に向けた検証を進めます。

2. 静岡市における実証内容

本実証では、「広域分析 → 候補地点の抽出 → 現地計測 → AI による検証」の流れで、腐食リスクの可視化と重点点検への活用可能性を確認します。

1. 広域分析・候補地点の抽出
   下水道台帳、点検・修繕履歴、管路構造等の既存データを活用し、腐食や硫化水素の発生に関係する要因を分析することで、リスクの高い候補地点を抽出します。
2. 現地確認・センサー設置
   分析結果と現場の状況を踏まえて実証地点を選定し、２地点に同一構成の計測機器を設置して、並行して継続計測を行う予定です。
3. 複数の環境データの継続取得
   硫化水素（H_2S）、溶存酸素（DO）、水位・水温、管内温湿度、流水音等を取得し、管路内の環境変化を把握します。
4. データ分析・AI 検証
   既存データと現地計測データを組み合わせ、硫化水素の発生条件や腐食状況との関係を分析します。腐食リスクの推定・可視化と、重点点検候補地点の抽出の有効性を検証します。

本実証では、硫化水素濃度の測定に加え、複数の環境データとの関係を分析することで、硫化水素が発生しやすい環境や腐食リスクを AI で推定する仕組みの構築を目指します。

3. 複数自治体での検証を通じ、実用化を目指す

下水道管路の構造や周辺環境、利用できるデータは、自治体によって異なります。当社は、福山市と静岡市での実証を通じ、共通して活用できる分析手法と、地域の条件に応じた調整が必要な事項を整理します。

得られた知見をもとに、日本大学の森田教授による技術監修のもと、腐食リスク予測モデルやセンサー構成、計測方法の高度化を進め、自治体の点検計画や継続監視に活用できるソリューションへの展開を目指してまいります。

本実証を通じて、PASP における地理空間情報・センサーデータを活用したリスク予測技術の高度化を進め、下水道分野での製品化・事業化につなげてまいります。

4. 実証期間

静岡市との協定締結及び実施内容の調整を経て開始し、2027 年 10 月まで実施する予定です。具体的な実施工程は、静岡市との協議により調整します。

5. 静岡市の実証実験事業について

静岡市上下水道局が抱える課題に対し、新技術やデジタル技術を有する企業・団体と連携し、実証実験を通じた技術検証や業務改善へのフィードバックを行うことで、持続可能な上下水道事業への社会実装を目指す取り組みです。

静岡市は、実証フィールドの提供や関係者との調整、運営支援等を行います。なお、本事業による補助金の交付はなく、実証に係る費用は当社が負担します。

静岡市公式ページ（実証実験事業の概要・募集結果）：
https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2432/s009040.html

■関連情報

異音検知・異常検知ソリューション「FAST-D」

FAST-D の機能や活用事例、導入イメージなどについては、以下をご参照ください。

https://fast-d.hmcom.co.jp/

FAST-D チーム note

異常検知 AI「FAST-D」に関する技術解説や製品紹介、設備・インフラの維持管理に向けた取り組み、AI プラットフォーム「PASP」の構想などを発信していきます。

https://note.com/hmcomm_fastd

■Ｈｍｃｏｍｍ株式会社について

代表取締役社長 CEO　三本 幸司

URL　https://hmcom.co.jp/

設立日　2012 年 7 月

所在地　東京都港区浜松町 2-10-6 PMO 浜松町Ⅲ4 階

事業内容　人工知能（AI）音声処理技術を基盤とした要素技術の研究/開発およびソリューション/サービスの提供

＜本リリースに関するお問合せ＞
報道関係者様：Ｈｍｃｏｍｍ株式会社 IR 担当　hm_ir@hmcom.co.jp
企業様：Ｈｍｃｏｍｍ株式会社 営業統括部　sales_team@hmcom.co.jp
お問い合わせフォーム　https://hmcom.co.jp/contact/
TEL：03-6550-9830　FAX：03-6550-9831